

## 第3期における設計研究グループの取り組み

設計研究グループリーダー 宇佐見 貞彦  
サブリーダー 石田 道彦

設計研究グループは、システム計画グループが検討されている基本的計画事項を受けて、最終処分場の形を具体化する手法について、従来の経験則や定性的な知見に偏っていた内容をできるだけ科学的知見に基づき、かつ、最終処分場の施設全体をシステムの・総合的に設計することにより、最終処分場の安全性向上を図ることを目的として活動している。第1期活動では個別施設における定量的設計技術などの要素技術の研究に主体をおき、第2期活動では施設設計全般（遮水工を含む）と地下水汚染という集約したキーワードのもとで設計のシステム化に主体を移した研究を進めてきた。第3期活動は、これまでの研究課題であった設計に関する要素技術研究、設計のシステム化（思想の統一化）という観点に加え、より具体的な立地条件を踏まえた設計思想の提案と、より一層安全な最終処分場を目指すための構造の検討という方向も加えた研究を実施した。

具体的には、最終処分場は地震や遮水工損傷などの異状事態においてもフェイルセーフで体表されるような多様な安全性を有することが望まれることから、このような最終処分場のあり方を検討すること、立地条件によって最適な構造が異なることがあり得ることから、立地条件別に設計内容を検討すること、そして、従来からの継続テーマとして、表面遮水工の設計手法のうち、従来研究されていない粘性土等の遮水工の変形等について検討することとした。

このテーマは、下記の3分科会で担当して研究した。

多重安全研究分科会

立地別設計方法研究分科会

表面遮水工設計技術研究分科会